クラス	302	担当教員	清源　友香奈

テーマ	言葉になる前の体験の心理臨床学的意義
著書･論文 研究課題等	【著書】 『日本の心理療法　身体篇』第二章「和太鼓演奏における身体の体験―皮感覚・運感覚・深部感覚の心理臨床学的有用性」新曜社　2017 『理解と体験をつなぐパラパラ絵本』誠信書房　2017 【論文】 「自他との「関係」を切り離してきた 20 代前半女性との心理療法過程―生きたつながりを取り戻す契機として機能する関わりの検討―」箱庭療法学研究 32-1　2019 「表現過程における体性感覚の心理床学的意義―和太鼓演奏者の体験の語りを通して―」心理臨床学研究 29-6　2012 研究課題：表現過程における体験についての心理臨床学的検討

ゼ ミ ナ ー ル 概 要

キーワード：　表現芸術療法、体験、自他との関わり、臨床心理学

目的、内容、方法、授業計画等：

〈目的・内容・方法〉

研究論文の作成は、自分が興味のあるものや、この時自分の心でどういうことが起こっていたのだろうといったことに関心を寄せて、自分なりに探求し、自分の中で納得出来る形で軸を通し見出された考えを、他の人にも理解できる形で文章にすることだと思います。このゼミでは、表現芸術療法や、イメージワーク、自他との関わりを通して、心の奥深さや、関わりによる変容に触れることを通し、言葉になる前から感じられている自分の内側から生まれた興味を見つけ、心理学的視点からそれぞれが卒業論文という形にまとめあげることを目標にしています。

〈授業計画〉

三年次の前半で、自分の考えや感じていることを言語化することや、表現芸術療法、イメージワークの体験などを通して、自分の心がどのように動くのかを感じ、自分のテーマをじっくり見つけてもらいたいと思います。三年次後半では、自分の関心のあるテーマの模索と並行し、関連する論文を要約して発表、卒業論文の序論（問題と目的）を書く下準備を進めてもらいます。

四年次前半では、序論を書き進めるのに並行して、必要に応じてゼミ生同士での調査の予行、夏休みが終わるまでにデータ収集、（インタビュー調査であれば逐語起こし､）四年次後半で分析、考察を書くくらいのペースを目標に、進めていく予定です。

基本的に三年次と四年次前半は、ゼミ生同士の関わり（ワークや発表を通して感じたことや考えたことを伝え合う時間など取ります）を重視して、四年次後半では、必要に応じて個別対応も行う予定です。

担当教員からのメッセージ

・表現芸術療法、箱庭療法、イメージ、夢、自他との関わり、心の変容などに興味のある方、大歓迎です。

・Gendllin の「交差（crossing)」も最近の自身の研究キーワードになってきています。ワークなどを通して、交差の体験、起こっていることやその体験が臨床現場どのように活かされ得るかなど一緒に吟味したい方、お待ちしています。

・ゼミ生同士で意見を伝え合う時間や、内面に触れるワークなどがあるため、自分の気持ちも他人の気持ちも大切にするスタンスで臨んでください。

・主体的、積極的な取り組み、希望は是非出していただければと思います。特に三年次は、こんなこともやってみたいといったことがあれば、取り入れられる体験は検討します。

・インタビュー調査を行いたい方は、希望に応じて、実施前に練習時間も設けられます。反対に、統計についての手取り足取りの細やかな指導をご希望の方は、あまり期待に応えられないと思いますので、予めご了承ください。

・色々書きましたが、心をフル稼働して、自身の興味のあることを深めていってもらえる時間になればと思っています。じっくり探求していきましょう。